

ばれっと

2010

5月

No.129

すぽっとらいと

特定非営利活動法人 ほっぷの森
障がいのある人もない人も
共に生きられる社会をめざして
“びすたーい～びすたーい～”



“びすた～り”とは、ネパール語で「ゆっくり」という意味です。
JR東北本線、仙台市営地下鉄長町駅を下車。奥州街道を仙台方面へ5分ほど歩くと、左手側に“長町遊樂庵びすた～り”というレストランがあります。築120年の元材木屋さんだった古民家を改修して作られたこのお店では、知的や高次脳機能障がいのある方が就労しています。

→2～3pへ

(写真：“長町遊樂庵びすた～り”の店内)

<目次>

- サポちゃんで行く骨工口施設見学！ せんだいメディアテークの巻
- サポ本を読もう！『地域と演劇 弘前劇場の三十年』
- 事業報告 ■ お知らせ
- サポセンカレンダー

すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

「障がいのある人もない人も
共に生きられる社会をめざして
びすたーり～ びすたーり～」

特定非営利活動法人 ほっぷの森



▲事務局長の後藤さん

知的・高次脳機能障がいの方の就労支援事業を行っている特定非営利活動法人ほっぷの森。ほっぷの森が運営しているレストラン“長町遊楽庵びすたーり”（以下、びすたーり）で、理事長の白木福次郎さんと事務局長の後藤まつ子さんに、これまでの活動についてお話を伺いました。

● 就労支援センターと レストランを作りたい！

そもそも最初の想いはすごくシンプルで、「就労支援センターを作りたいということとレストランを作りたいという2つでした」と、白木さん。1995年からスペシャルオリンピックスにボランティア参加していた白木さんは、その縁で3年半ほど社会福祉法人の理事長も務めていました。その法人が運営しているレストランはすごく良いお店ですが、どうしても＜障がいを持った方のレストラン＞という目で見られてしまうのだとおっしゃいます。

「2006年に障害者自立支援法が成立しましたが、障がいを持った方の一般就労は難しく、社会福祉法人ではこの問題の解決に限界を感じた」と白木さん。職員は、福祉の専門家ではあるのですがビジネスの専門家ではありません。一般就労に必要なビジネスの側面を持ったトレーニングを実施していくのはなかなか難しかったそうです。また、そもそも障がいのある方たちが自立できて一般就労につながる活動自体ほとんどありませんでした。

そこで白木さんたちは、一般就労のためのトレーニングを行う組織を立ち上げました。それがNPO法人ほっぷの森の前身組織である“有限責任事業組合（LLP）就労支援センターほっぷ”（以下、LLP就労支援センターほっぷ）です。



▲ スタッフが働くレストランの厨房

● レストランびすたーりの誕生

2007年2月、LLP就労支援センターほっぷを設立し、段階的に一般就労に向けたトレーニングを提供する活動が始まります。「モデルがないところからみんなで作くり上げなければならなかったのがそれは大変でした」と事務局長の後藤さん。

それから1年後、LLP就労支援センターほっぷの事業を受け継ぐ形で特定非営利活動法人ほっぷの森（以下、ほっぷの森）が設立され、就労支援センターほっぷはその中の一事業になりました。並行して、一般就労に近い形の雇用契約を結んだ就労の場を提供するため、レストランをつくる取り組みを始めました。

しかし、物件探しに難航しました。障がい者の就労の場ということで、契約直前に断られるなど、活動への不理解と偏見には大変苦労したそうです。知らないが故の偏見の壁を崩すのは大変なことでした。そんな時に、白木さんたちは解体される寸前の築120年の古民家に出会い、就労の場であるレストランびすたーりが実現することになるのです。ほっぷの森設立から半年後のことでした。

● より良い支援の形を求めて ぶつかり合いの日々

当初は、福祉の分野にいた人、飲食業界にいた人と、さまざまなバックグラウンドを持った人たちがほっぷの森に参加したことで、意見の相違やぶつかり合いの日々でした。ただ、“スタッフ（障がい者）ひとりひとりの生活と仕事のより良いサポートとは何か”という点で互いに考え、意見をぶつけ合ったので、それは面白いけど大変で、大変だけど面白い日々だったそうです。また、発見もたくさんあったとおっしゃいます。

例えば、福祉的な視点では、障がいのある方が混乱しないために、皿は用途によって色を変えたり印をつけようと考えがちです。けれど、びすたーりでは、お客様に満足していただくために料

理がはえる白一色の皿を採用しました。結果は、障がいのある方々が用途をちゃんと覚えスキルアップしていきました。障がいがあるからと予線をはっていたら見えなかった可能性を気付かされたそうです。

●政策提言力の向上と各事業所のレベルアップが目標

目下の目標は、各事業所のレベルアップを図ることだそうです。「それぞれの事業所で働くスタッフ（障がい者）各人の目標をどう達成するか。また、実現するためにパートナー（職員）はどう具体的にサポートするのが良いか。この点が課題です」と後藤さん。

さらに、より大きな組織目標として、次の2点を挙げているそうです。1つ目は、障がいのある方に可能性があるということを社会に広めたいということ。2つ目は、政策提言活動。一般就労をした方にも支援は必要なのですが、移行支援で一般就労した場合は、他の企業と雇用契約した時点で移行支援は受けられなくなります。職場に定着するまでの支援が必要なのですが、支援制度が整ってないのです。現在ほっぷの森では、一般就労した人たちとトレーニング中の人たちの情報交換の場である「先輩会」を開き、就労後のケアにも対応しているそうです。

●サポセンは就労トレーニングの場のひとつ

「サポセンには、就労支援センターほっぷのトレーニングの一環で、日報を印刷するためにスタッフが来ています。印刷をするための一連の手続きもトレーニングの一環なので、サポセンスタッフにはこれを理解して対応してもらおうと助かります。また、サポセンには様々な分野の利用者の方がおり、NPO・企業・行政などいろいろな立場の人が来館しているので、そのような人たちが協働できるような出会いの場となってほしいですね」と後藤さんはおっしゃっていました。

★★取材を終えて

“より良い支援方法とは何か？ どういうケアが望ましいのか？”常に現在よりも良い支援の形を考えて、面白いけど大変で、大変だけど面白いぶつかり合いと成長の日々を積み重ねてきたほっぷの森。様々な立場の人たちが、現場に入り込む、そしてそこから課題を切り出し、試作を作って修正を図り支援方法を改善していく。NPO支援においても参考になるヒントをいただいた取材でした。（担当：大石 俊輔）

<団体情報>

特定非営利活動法人 ほっぷの森

知的・高次脳機能障がいの方の一般就労を実現すると共に、働く場を作り出すことを目的に活動している。理事9名、監事1名、事務局職員2名

◇就労支援センターほっぷ

パートナー6名（事務局職員2名）

スタッフ15名

（知的障がい、高次脳機能障がい）

◇レストランびすた〜り

パートナー7名

スタッフ11名

（知的障がい、高次脳機能障がい、身体障がい）

◇びすた〜りフードマーケット

パートナー5名

スタッフ5名

（知的障がい、高次脳機能障がい）

■連絡先

〒984-0014

仙台市青葉区本町3-5-22 宮城県管工事会館2F

TEL 022-797-8801

FAX 022-797-8802

HP <http://www.hop-miyagi.org>

<ミニ情報>

仙台市内の

主な障害者就労支援の相談先リスト

今回、すぽとらいとで取材した「ほっぷの森」以外に、仙台市内で障害者の就労支援や相談に応じてくれる施設をご紹介します。

◆仙台市障害者就労支援センター

仙台市内在住の15歳以上の障害のある方、または仙台市内に就労（就労希望）している方の相談に応じている。本人・家族以外に、障害者雇用を考えている・している企業も相談可能。

相談は、平日以外にも予約制ではあるが夜間・土日でも受付している。

〒981-3133 仙台市泉区泉中央2丁目1-1

仙台市泉区役所東庁舎5階

TEL:022-772-5517 FAX:022-772-5519

HP: <http://www.sendai-wsc.jp>

<平日>窓口での相談 8:30~17:00

電話での相談 8:30~19:30

<土日・祝日>移動相談窓口 10:00~15:00

電話での相談 8:30~17:00

◆ハローワーク仙台

障害者の就労に関する相談や職業の紹介を行う専門窓口がある。

〒983-0852 宮城野区榴岡4-2-3 仙台MTビル4階

TEL:022-299-8829 FAX:022-299-8823

サポちゃんで行く **骨** プロ せんだいメディアテークの巻

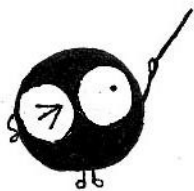
仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。今月から各施設で、骨プロがどのように活用されているかをご紹介します。

せんだいメディアテーク（以下smt）は、美術や映像文化の活動拠点であると同時に、全ての人がさまざまなメディアを使いこなし、自由に情報のやりとりができるようお手伝いしている公共施設です。今回は、smtの企画・活動支援室齋藤哲さんにお話を伺いました。

●骨プロ大人気！？

骨プロラックは2階奥にありましたが、なんとチラシがほとんどない！「smtでは、全てのチラシにIDをつけて管理しているのですが、そのデータによると骨プロチラシのはけ率は7割強です。図書館に行く途中の方がよく立ち寄られているようですね」と齋藤さん。



▲2階にある骨プロラック。smtの管理運営するWEBサイトでは電子化サービスも行っている。
<http://www.smt.jp/honepro/>

●骨プロ⇒草の根市民活動との出会い

チラシの電子化サービスに協力してくださっているsmt。骨プロチラシが届く毎週水曜日は、1日中作業に追われるそうです。

骨プロに参加して、何か変化はありましたかと齋藤さんにお聞きしてみると、「市民活動を支援している実感が得られるようになったことですね。大きな団体さんの代表の方などにはお会いする機会があつたんですが、骨プロに参加してからは本当に草の根的な活動をしている方と触れ合うことが増えました。smtの設置趣旨の中に市民の情報発信を支援することがあるので参加したのですが、smtにとって大きな転機になった気がします」と、嬉しいお言葉をいただきました。

●smtは情報発信基地

7階では、チラシ・冊子・PVなどの作成時にアドバイスや必要機材の貸出を行っています。まずは7階カウンターまでご相談ください。市民活動団体にとって多くの市民に向けた情報発信は重要です。心強い味方ですね。また、同じく7階にある出力センターでは、サポセンではできないカラーコピーや大判プリントができます。ポスターの印刷などにいかがでしょうか。

（担当：菅野 祥子）

今月のサポ本 『地域と演劇 弘前劇場の三十年』

1978年、今から約30年前に「劇団弘前劇場」は青森の地に誕生しました。団体設立メンバーの一人でもある長谷川孝治は、演出家、役者として30年間、「生活の真ん中に演劇を置く」と決意してこの劇団にかかわってきました。

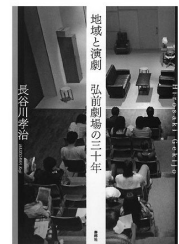
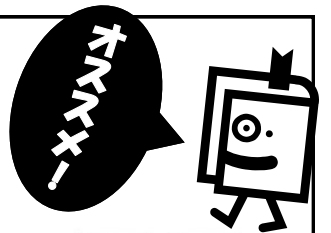
著者は本書の中で、劇団の存在理由への問いかけを三つ挙げています。「なぜ演劇をしているのか」「なぜ劇団をやっているのか」「しかも、公的な助成を受けてまで」最初の二つの場合、「好きだから」という言葉で解決するかもしれません。しかし、そこに行政から助成金などの補助が出ている

ことを考えると、「好き」というだけでは済まされない「重み」がついてきます。

これは、演劇だけではなく、NPOにも共通する考え方だと思います。自己資金だけではなく、他者からのお金を得るということは、当然「責任」が発生してくるからです。

本書の中では、上記の問いかけに対して明確な答えは出ていません。しかし、市民活動にかかわる者として「自分はなぜこの活動をしているのか」そんな事を自問させられる一冊でした。

（担当：内川 奈津子）



著者：長谷川 孝治
発行：寿郎社
定価：1,785円（税込）

■この本は「G 文化芸術」にあります。

事業報告

「シアター3周年 記念シンポジウム」

呼吸するお寺、胎動するシアター
～異質が出会い・交流する場・應典院（大阪）に
学ぶ、サポセンシアターの未来とは

- 日時：2010年3月12日（金）19：00～21：00
- 場所：市民活動シアター

今回の企画は、先進的な活動を行うゲスト・パネリスト、そして来場者の方と「これからのシアターの可能性」を探るという目的で開催致しました。

前半はゲストの山口洋典さん（浄土宗應典院主幹・應典院寺町倶楽部事務局長）のお話。劇場にもなる本堂を備えるお寺として、地域に開かれたお寺の活動をご紹介します。

後半は登壇者の山口さん、八巻寿文さん（演劇工房10-BOX二代目工房長）、柿崎慎也さん（FesLab 代表/ TRUNKクリエイティブ・ディレクター）と来場者を交えての意見交換が行われ、登壇者からは「シアター事業の共催などの協働で、無限の可能性が開ける」、「劇団等の団体とフレンドシップ関係を築いてはどうか」というアイデアが飛び出しました。また来場者の方からは「シアターが色々な意見や表現が交流する場になって欲しい」という意見を頂戴しました。

シアターだけでなく、サポセンの可能性も開くことができたシンポジウムとなりました。
（担当：菊地 竜生）



お知らせ ●○○●

●今月号よりイベント紹介が変わりました！

毎月、『ばれっと』とサポセンホームページにて紹介していた「イベント紹介」が、以下のように変わりました。

＜変更点＞

- ①掲載を希望したイベント情報は、仙台市市民活動サポートセンターホームページのみに掲載
- ②毎週水曜日に掲載作業をします
- ③受け付けたものから、順次ホームページに掲載していくので、イベント開催の数ヶ月前からホームページに掲載されるようになります



※ホームページのみでの掲載に伴い、イベント紹介への掲載希望フォームも変更となりました。

詳しくは、スタッフまでお問い合わせください。

＜今年度のサポセンの取り組みを紹介＞ 11年目のサポセンはココが違う！

2010年4月から2015年3月までの5年間、指定管理者として、（特活）せんだい・みやぎNPOセンターが再度サポセンの管理・運営を担うことになりました。

私たちはサポセンを、「市民協働のまちづくり拠点」と位置づけ、仙台がより豊かな住みよい街になるように、これまで以上に、市民公益活動促進に向け取り組んでいきたいと思っています。

今年度は、次のことに重点的に取り組みます。

①相談業務を強化！

これまで培ってきたノウハウを活かし、人と団体、団体と団体をつなぐコーディネーターの役割を強化していきます。

- ・市民活動相談（随時）
- ・専門相談（予約制）

組織マネジメントや資金調達に関することなど、具体的な団体の課題について、市民活動の組織運営の実践者である専門相談員が個別に対応します。

- ・こらぼん協働相談（予約制）

市民活動団体と仙台市の協働推進を目的に、定期的に個別相談会を実施します。

②市民活動団体の情報発信支援を強化！

より多くの皆さんに、仙台の市民活動の情報や成果をもっと伝えるために、サポセン全館あげてまるごと市民活動のイベントを開催します。（11月下旬予定）

③「市民活動シアター」を もっと使いやすいシアターに！

外部の方をアドバイザーとしてお迎えし、市民活動シアターをもっと活用していただくためのプログラムを提供します。特に、平日のシアターの活性化に向けた取り組みを開始します。

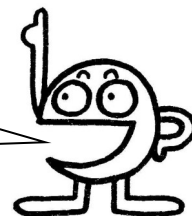
（センター長 小松 州子）



日時	イベント内容	会場	料金
6月24日(木) 14:00~16:00	ONPOいろは塾 「地域の役に立つ活動を始めたい!」「新聞やテレビでよく耳にするNPOって何だろう?」そんな皆さんにおススメの講座です。NPOの基礎について、90分でわかりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)



平均受講率105%の超人気講座です!!
お申し込みはお早めに!
※平成21年度の定員に対する受講者数の割合
(10回の平均値)



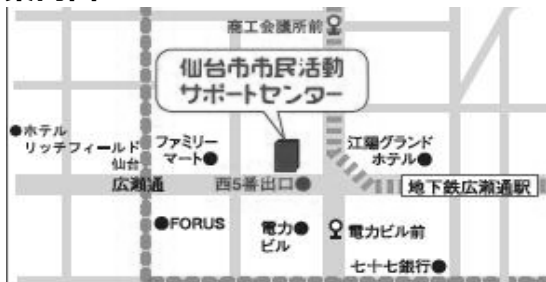
仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ < 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
5月8日(土) 10:00~17:00	◆専門相談(先着5人/1組50分程度) 再就職支援、キャリアアップ支援の活動に興味がある方の相談に応じます。	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
5月29日(土) 14:00~16:00	◆お役に立ちたいあなたのための棚卸しサロン 定年退職前後の方に向けて、活動の先輩からの事例提供。さまざまな情報提供、交流などを行います。	研修室5 (4F)	資料代500円 (事前申込必要)
6月12日(土) 10:00~17:00	◆専門相談(先着5人/1組50分程度) 得意なことや仕事の経験を生かして「ミニ起業」してみませんか?活動のノウハウをお伝えします。	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお越しの際は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。
- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]
電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

■ 開館時間

- 平日 午前9時~午後10時
- 日曜・祝日 午前9時~午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

4/28 5/26

■ 編集後記 ◆今月号よりリニューアルしたばれっとは、いかがでしたか?ページ数は少なくなりましたが、内容の濃いものをお届けしていきますので、今後ともよろしくお祈りします!(菅野)
◆サポセンを飛び出し、市内で活躍している団体、市内の施設などに取材に行きます。文字どおり足で稼いだ情報をお届けします。ぜひご覧になってのご意見ご感想をお寄せください。(葛西)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年4月30日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:菅野祥子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2010年4月1日~2015年3月31日]